

# 新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会  
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

三周忌

## 藤島玄先生 思い出の綴

### 藤島さんからの手紙

五十嵐 篤 雄

藤島さんの三回忌に、思い出の文を、と事務局から依頼があったが、山以外の私事も含め40年以上もお付き合いさせていただいたので、いざ思いつきになると、沢山ありすぎて、何を書こうか戸惑っていた。

或る日、机の引き出しを整理していたら、藤島さんからの古いハガキがでてきた。

よしこれで行こう、藤島さんからきたハガキを何枚か原文のまま紹介すれば、如何にこまめにハガキを書かれたか、そのハガキを読むことによつて、お人柄が伺われ、何よりの供養になると思ひ、載せることにした。本来ならば、そのままコピーにすれば書体も判り効果的でありましょうが、

活字で紹介することにしました。

昭42・8・20  
陣竹を5ノ6本、横一列にならべ、横から串ざしに穴をあけ、マッチ位の針金を通して両側へ紐を取付ける輪をつくる。前後2ヶ所、長さは1尺5寸位、中央部に少し反り、先端は斜めに切揃へて少し反りがある。ソリみたいだしス

キーとも云へる。モチロン子供の遊び道具だが、大人が作つてくれたもの、これは君でもすぐ作られる。誠にスマー

トのもので後紐は輪になつて

いるものもある。

月山の下の田麦俣村のもの

こいつは陳列してあつて頂いてくる訳にはいかない、その

気になってみると色んなものがある。

歩数計受取りました。月山は雨だらけ、チョッピリ緊張の場面もあり面白かった。

（陣竹スキーの作り方をな

ぜ私に教えようとして居るのか今でも判りません。）

昭43・8・1  
井口君から聞きお供したい

ね。費用もなんとかなるでしょう。15日から月山に行くから山形を廻つて帰つてからプランを覚えて下さい。コレ今生の見納めだったら、できることなら栗駒山より焼石山に登りたい。多少の便宜もあるから、高山植物も多いのです。

次、パロメーターの手ずるありませんか。実は会津の連中に5500円借金あり、それに当てるのを先方は希望している。できるかどうか、とにかく君に相談してみて。

その後、月山から帰つた藤島さんは我が家に泊り翌日8月17日から東北横断、三陸の4泊5日の旅にでた。同行藤島玄、井口正男、佐藤一栄、

五十嵐篤雄、杉原八百樹、菅靖夫、須藤洋一。

昭46・5・15  
その後、弥彦ノ野積ノ間瀬と歩きました。イヤハヤ老人は一人歩きするもんでないと

思い乍ら、ナリフリ構わず命あつての物種とばかり海岸の岩伝い、2度裸になつてゴザ

キ、3度目に行詰り、巻道は

——そこはお手のもの——すぐ見つけてどうやら切り抜け

たが△から間瀬まで、どうです一人も会わず、風景を見るどころか、行つたり戻つたり

いやはや大変。6月6日の佐渡の県民スポーツに支部総会を考えています。そうならら佐渡へ出席願います。今名簿作りに着手します。

あれからお寺巡り拓本となりとなるというの沢山目につき

昭48・4・10

たいへんお世話になりました。お弁当ほんとうに美味しかったです。その翌日

になって初めて食事をとり

人でペロリ平げました。厚く

おん礼申します。どうかにか一

王子小屋まで登り(一行はその日のうちに頂上ピストン)

その翌日は例の小屋へ、これまた難行で半分以上は雪と泥です。小屋の中は安ばい額や規定などベタベタいやはよとんだ少女趣味に閉口、その翌日は立烏帽子と久しぶりにブドウハナ山を登りました。その後がいけない、曾山の車で

昭55・12・12

ご返事見ました。ではそうして下さい。代金は私が支払います。また、もっと早くそちらへ行く機会があればお届けいたします。

## 大リーダー玄さん

室賀輝男

く便利な筈なのと思っ  
返して、古いハガキを  
かに活躍された時代の、故人の面影が彷彿として浮んでく  
る。  
電話は用が足りれば、それ

っきり何も残らない、という事を藤島さんは知っておられたのであろうか。  
藤島さんからもらった数十枚のハガキは、掛け替えの無い私の宝物になってしまった。

リーダーは万障繰り合せて各種会合や行事に参加しない、役職につくものはこれが鉄則です。出席しない理事や役員は遠慮しないでドシドシ首をすげ替えなさいと良く云われた。名前だけでは駄目、年令に関係ない、協会も支部もこれが大原則ですと云われ自ら実行されていた。この教えがあつたからこそ、強力な越後衆と云われる、山岳会集団が出来上つたものと思つている。

セナミ温泉でとうとう泊り、イヤハヤひどいメです。歌帳下されたお方にくれぐれもよろしく。  
昭55・12・9  
井口の学生書房にかねて私が君に呈上したいデルス・ウザラが2冊きて、1冊は私

昭55・12・9

これ両方読みたいし前者の方が面白くて役に立ちましよう。どっちにしてもいい本に違いない。

が取ったが君はそれを別に注文したか否か知らせて下さい。注文なしなら私が届ける。注文してあるなら落手次第知らせて下さい、私が代金支払いますからね。

昭55・12・9

日光寺ねえ、私も貉の翌日訪れて古い墓石を十数ヶ掘りました。

いまバラバラひろい読みますと角川文庫のそれより訳も違いますが、より忠実に訳してあるように必ず興味あると信じ

昭55・12・9

沢山ある中から差し障りのないものを6枚紹介しました。藤島さんは電話がお嫌いだったのか、どんな、些細なことでも必ずハガキでくださつた。ハガキより電話の方が安

た。ハガキより電話の方が安

昭55・12・9

過日、弥彦山の松明登山の

た。ハガキより電話の方が安

昭55・12・9

立って舞台を廻しなさいと、

立って舞台を廻しなさいと、

昭55・12・9

定が揃み大難渋した。正統JACを以って任ずる玄さんの

最終的に飯豊連峰に決定したのだが、昭和35年日本山岳協会発足に、日本山岳会、全岳連と中央で確執がつづき、中央の余波を受け、県内岳界も組織一本化問題と、会場地決定が揃み大難渋した。正統JACを以って任ずる玄さんの

存在と、力は絶大であったのだが、娑婆気の多い自称山屋、文化人も多く、会場地決定と、

すから。

いざと云う時に越後もんの

如く、飯豊連峰に落ちついた。集り、用意した記念品が足りない有様に慌ててる役場職員を横目で見ながら、ニヤニヤする玄さんは、人を集めるに

なつたことに、業を煮やし、玄さんを変え口角泡か飛ばしたものである。刻々と変る怪情報に、時には越後三山や頸城三山有利が伝えられ、政治家、町村長と秘かな会合にも

力を見せて、アツと云わせますから、もう少しやらせて置

い祭典を演出したのである。大先達玄さんを偲ぶひとこま

玄さんは登山家の自信と、一歩もひかない決意がいつも漲り、山の実力者玄さん、大リーダーとしての貫禄と心意気があった。山岳会は飯豊山以外何も考えない。今迄にない春の残雪期飯豊国体を如何に安全に終らせることしか考え

が経ち、会場地も柿が稔った

開会は山都町長の挨拶に次いで玄さんの出番。開口一番あなた方は飯豊山に登りに来たのか、それともこの、飯豊の集い、に集るために来たのか

安全に終らせることしか考えがなかつた玄さん。

何時の頃か定かではないが、会津川入で泊った夜に、今各地で行われている山開きのこ

を集めたらどうだろう、と打ち出した。

でも思い出せる言葉の2、3を拾って玄さんの想い出とする。

話から、飯豊山へは年間通して5000人も登山者が入

その翌年、第1回の「飯豊の集い」が川入で開催されることに決り、大型ポスターが西会津の関係町村始め磐越西

調子のいいこと言っているが、実践になると糞の役にも立たない者ばかりだ、腹と責任のない役人みたいな人間はダメだ。

うに聞いていた玄さんが、飯

線沿線の各駅、会津若松、さ

山は理屈でない、実力をつけネバネ、口ばかり達者なあ

山形県側でもやっているが、

川入分校の校庭が埋まる老若男女合せて300人も人が

## 藤島さんの回想

鈴木敏雄

口先きだけで兵隊もロクに持たん者なんか当にしなさんナ、責任と実行力ない人が大ラッパを吹いても、誰もついて行きませんヨ、そんなもの

とが話題となり、飯豊山の御

当然に山都町で主催するこ

その中に消えてしましますか

と、このこと、これを頷くよ

先頭第一陣が出発したのを

〇〇さんはまだまだ働いて

豊山の山開きは新潟県側でも

当日は玄さんの予定通りに、

面倒見て下さい。気をもむこ

人集めするだけなら簡単な事

し、先ず第1回飯豊の集いの

心に小椋利雄さんの家に上り込み飲み始める。

当時の玄さんは、酒なら何時でも良しで、飲んでも歩くのはしつかりしていた。先頭の出発から1時間遅れで川入を後にしたが、御沢からの下、中、上十五里の登りはやはりきつい。

ようやく地蔵小屋に着き昼食と同時に酒が廻る。地蔵岳から剣ヶ峯では、玄さんの教えに従い、飯豊山信仰の登拝路であった旧道を探索して歩きながら三国小屋に入る。こ

こでも先発隊の残した肴で夕餉の酒盛りが又もや始まる。 昨晩からの酒、今朝の酒。そして途中も水筒から酒、と全く酒づくめの第1回飯豊の集い。玄さんは飲めば酔う程に口元をほころばせ終始ニコニコとやさしい童顔にかえり、敏さんや、明日は疣岩から弥平四郎へ、ミツル・哲ちゃん(渡辺満・齊藤哲雄とともにJAC会員)と4人で下ろう。翌朝早々に玄さんを囲むようにしながら、色々と昔の飯豊山登拝の話、さては御山掛けの信仰の話などを聞きながら

20年も前のことではあるが、飯豊山登拝の唯一のルートで

あった山都口からの山開きを兼ねたこの飯豊の集いも、回を重ねるたびに盛大となり、毎年8月第1週に行われているのも、かつて玄さんが人集めの冗談じみた話が転じて今

なお続いている。これもやはり飯豊山なればこそ、すべて玄さんの息のかかった山の領域で、山なら飯豊山だと自負する玄さんの、先達からの教えを伝承しているものと思わ

れてならない。 かつて深田久弥さんが、飯豊連峰を指し、何んと大きな馬の背に似た山稜なんだろう、と驚嘆し、更に日本百名山にその開発(飯豊山のこと)に力があったのは、長年この山に入りびたっている新潟の住人藤島玄さんであろう。玄さんの言によると、日本のどの山も皆つまらない。飯豊のよ

田さんが玄さんに対し唯一の感嘆の言葉であったのではな

かろうかと思われる。 先年、玄さんが病床に臥されるまで十数回続いた玄山会

も、玄さん自らの発案からすべて飯豊山の見える所(第1回は藤島さんのお宅で開催以外)でと、会津側、越後側と隔年毎に毎年秋10月開催した

を慕って集る吾々山仲間である。 越後の山の先駆者、山一筋に生きられた藤島先生が、逝去されて三周忌を迎える。先生との出会いは、昭和32年7月25日、妙高温泉小林旅館で催された、日本山岳越後支部会員総会の会場であ

### 藤島玄先生の回想

藤井 信

った。この玄山会も今では駆けめぐる走馬燈のように去来

する。 時の刻も早い、はや三周忌、玄山院釈正見の大居士は、飯豊連峰杖差岳のお花畑に囲まれた山上の肩に今も穏やかに笑顔で訪れる登山者を迎え、見守りながら、はるか南の飯

豊山をかいま見ていることであろう。 合掌

翌日、26日、2泊3日間、第12回国体県予選会が、笹ヶ峰火打山焼山雨飾山ノ楳山新湯を会場として行われた。山中行動の休憩のときであった。服装のことで随分きついお叱りを受けた。今はチェックのシャツなど極く自然であるが、当時は黒など無地のものは、オーダーでもなければ着れない時代である。当時、赤や青のチェックのシャツは派手なもので、越後の正統派からみたら場違いの服

装で、とつても許せなかったのである。

上越国境、谷川岳等を中心に行活動していたので、自然に関東方面の影響を受け、カラーの違いが起因であったと思っ

て、羚羊や犬の毛皮の尻当てをぶらさげていた頃である。 当時は山登りの方法も、ハ

1ケンやボルト類を多く使ったの登り方は、やれ人工的だとか言って批判的で、オールドックスな登り方が主流であった。 37年の夏だったと思う。飯

いたって謙虚な山男であったと私は思っている。

山の正統派の統率者からみたら、肌の合わない小生意気なチンピラにみえたのである。北股岳の鳥居はどうみても、どんなタイプのザックを背負っても、潜ることは不可能な大きさである。鳥居を潜る潜れないは別として、スポーツ店の店頭からワイド型キスリングザックは姿を消してしまった。

登山用具に対する考え方、ザック一つとっても、詰め方の容易さよりも、長時間背負って行動ししやすい、安定度を重視した鋭い洞察力には敬意を表すものである。30余年のご交際のなかで、山行を共にした数は、県内外の山をはじめ、ニューギニアのマウント・ウィルヘルム、韓国の智異山、ヒマラヤトレッキングと、海外の山までその数は枚挙にいとまありませんが、重い標識板を背負って朝日連峰の山々に取付けまわった山行は忘れることができない。あの頃、藤島先生とどうしてこの組合せができたのか、今考えても、

その理由がわからないのである。奥三面部落では高橋善六さん宅に泊った。ここでは明日からの夜の楽しみに、蒸留したアルコールを頂戴した。1日目、三面小屋へ道陸神峰へ相模山、今日の泊場は草原の美しく広がる善六の池である。2日目、北寒江山、朝日連峰の主稜に出て、朝日連峰を縦歩する日本山岳会婦人部のパーティーに出合う。標識板の取付け作業の私たちより、婦人部のパーティーの歩行は当然早い。しかし、幾度となく休憩時には一緒になるのであった。龍門山へ西朝日岳へ大朝日岳へ平岩山と取付け作業を進み、角榎小屋泊りの予定であった。小屋は満員、小屋の外にもテントが張ってある程の状況であった。泊りの計画を変更、針生平とする。最後の夜となった針生平の小屋では、バックダンの水割で疲れを癒しながら、今日、出合った婦人部のことから、人の歩行能力や限界についての話題となった。

行速度が早くても、長く休憩をとる。荷物が重い、体力的に弱く歩行速度は遅い。しかし、呼吸を整える程度の休憩で歩き続ける。1日の仕事量は両者ともほぼ同じである。従って、目的地への到着は差がなくなる。ペース配分についてである。幕営地の指定を受ける北アルプスや、長丁場の1日の山

昭和39年は東京オリンピックの年であった。同年開催の第19回国民体育大会は新潟県で異例の6月大会となった。当時の山岳競技は公開演技ということで天皇杯、皇后杯の得点種目外で、競技会場は開催地の名山が選ばれた。新潟県の会場には、頸城三山、越後三山、飯豊連峰が候補にあがったが最終的に飯豊連峰が選ばれた。新潟県山岳協会が母体となつて関係市町村、自衛隊の応援のもとに6月6日から11日

### 新潟国体を偲ぶ集い

五十嵐 篤 雄

行で、その後の山行に精神面で役立ったことを覚えている。ご案内申しあげました。当時の役員名簿を調べてみると、会長武田久吉、副会長尾関広、松方三郎、渡辺満寿太郎（新潟県山岳協会初代会長）、委員長高橋定昌、副委員長長齊藤平七、総務委員藤島源太郎、森谷周野、技術委員長鈴木林治等の先輩は既に他界されていました。

ご存命の諸先輩は、70才後半から80才を超える高齢で体調がすぐれない、病床に伏している等で残念ながら拝眉の機会を逸してしまいました。それでも新潟国体にご苦労された20名の他に藤島さんの愛娘、滝口豊子さんも出席、けむるような雨の菖蒲を觀賞、初夏のあやめには雨が似合う夜は青年の家で、なつかしい25年前の古き良き時代の話は、さつ夜更けまで続いた。

翌朝は雨もあがり広い縁側から見えるガラスのような湖面に跡を残しながら遊泳しているアヒルを眺めながら朝食。それぞれの車に分乗し、なつかしの湯ノ平山荘に向う。カケドメ駐車場からブナ林

の中の小径を辿ること1時半、湯ノ平山荘に着く。日曜日だったので幾組かの遊山客がいた。

川原の蟹湯で汗を流し、山荘前の広場で小さい焚火をし、ささやかな酒宴。

帰りがけに水天狗坂途中から振り返ると女子風呂に入浴

### 三条市山岳連盟

#### 創立25周年記念祝賀会

室賀輝男

平成2年7月3日、ビップ玉姫殿で岳連創立25周年記念祝賀会が開催され、ご招待をいただいた。当日は連盟会長で三条信用金庫会長の金子六郎氏、杉野体育協会会長、広瀬市体育課長等多くの来賓があり、秀峰山岳会、三条岩峰山岳会、三条駒草山の会、おいらく山岳会等々から旧知の仲間多数が顔を揃える盛況であった。望月、久保岳兄等が岳連結成で会議を重ねられ、奔走されたのがつい先日のように思われるが、月日の経つのは余りにも早い、初代会長

中のご婦人が見える。感度ブリズムで覗いたら、当のご婦人はたのしげに手を振っている、という一幕もあり、さわやかな1日であった。

初夏の6月16日、17日のたのしい新潟国体を偲ぶ会であった。

のスタッフがあわて気味である。やがて25年前に山に情熱をもやした時代に若返り、山岳会ごと山にの唄、山の讃歌の大合唱がくり上げられた。

いつ果てるともない賑やかな会で、久々に多くの山の朋友と巡り合った。黒々とした髪と入れ歯を添えると昔の顔が思い出せるが名前が出て来ない。ご無沙汰の証拠である。互いの健康をたしかめ合い、協会への変らぬ協力をお願いする。岳連が25年を節として更に50年、100年の大きい節に向けて、地域での社会体育振興の担い手として、更なる発展をされることを祈り出席の報告とする。

#### 荒沢岳親睦登山案内

主催 新潟県山岳協会

主管 奥只見山岳会

日時 平成2年10月13日(土)

14日(日)

山名 荒沢岳(1968・7m)

宿舎 北魚沼郡湯之谷村銀山

平村杉 奥只見山岳会山小屋(15名収容)

小屋が小さいので各自、車又はテント泊の用意をお願いします。伝之助小屋手前のカマボコ型小屋です。

装備 日帰り秋山装備(雨具、水筒、朝・昼食他)

シュラフ、テント、懐中電

灯(ザイルは不要)

山頂10時50分着

1:30 前

2:00 前

1.8Km

1.0Km

13時下山開始  
17時解散予定  
申込 ハガキに所属団体名、参加者氏名、住所、電話、年齢等を記入して左記宛に申し込み下さい。  
新潟県山岳協会宛  
〒940  
長岡市学校町1-12-23  
室賀輝男宛  
問合わせ 奥只見山岳会事務局 湯之谷村役場 佐藤明美方  
☎02579121122

その他 懇親会の飲食物は、各自地元特産品を持参下さい。

## 登山用品専門店

信頼できるパートナー

## 大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736